

学校名	佐賀市立城南中学校
1 前年度 評価結果の概要	・「不登校対策」において、成果指標（数値目標）を達成することができなかった。その他の項目については、「ほぼ達成できた」「概ね達成できた」と評価でき、全体として良好な教育活動が展開できたと考える。 ・「不登校対策」では、学校が安心できる場であると生徒が感じられるよう、登校できていない生徒への支援を充実させることで少しずつ好ましい方向へと導くことと、未然防止と早期発見に努めることが大切と考える。しかし、生徒本人の学習や人間関係の問題だけでなく、家庭的な問題等、多岐にわたる要因があり、対応が難しい面がある。また、担任だけでなく全職員の共通理解を深め、取り組んでいくことが課題である。 ・本年度から、コロナ禍前と同様に、教育課程や行事等が制限なく、通常通り行うことができた。また、コミュニティ・スクールを通じて、家庭、地域と一体となった教育活動を行うことができた。ただし、コミュニティ・スクールの認知度が保護者については8割を超えているものの、教職員や生徒が5割を切っていることが課題である。

2 学校教育目標	『城南中学校生徒としての誇りをもち、たくましく生きる生徒の育成』 ～「城南魂をもち主体的に学び、人の気持ちのわかる人」の育成を目指して～
----------	---

3 本年度の重点目標	・主体的な学習者を育む学習指導方法として、『学び合い』の考え方を軸とし、特別支援教育の考え方を取り入れた授業の実現を図る。 ・不登校を減らすために生徒指導の三機能を基盤にした開発的生徒指導の充実を図る。 ・学校教育力向上を目的とした、地域との連携（城南中学校運営協議会、城南豊夢学園運営協議会）の活性化を図る。 ・特別支援教育に向けた、生徒、教師の「困り感」解消に向けた取り組みの充実を図る。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○『学び合い』の考え方を軸とした授業の実施 ○家庭学習の充実	○授業に対して、「自分が理解できたら、周りの人も理解できるよう意識して取り組めた」と回答した生徒80%以上 ○「自分で計画し、家庭学習を行った」と回答した生徒80%以上	・全職員で、『学び合い』の考え方を軸とした授業を実施する。 ・家庭学習について考えたり、友人の学習法を学んだりし、自分の計画を立てさせる。	B	・「自分が理解できたら、周りの人も理解できるよう意識して取り組めた」で肯定的回答が87.5%であり、授業では仲間と協力して学習することができている。 ・「自分で計画し、家庭学習を行った」と回答した生徒は58.9%で、保護者の回答割合も同程度であった。スケジュール帳をうまく使っている生徒のものを学級、学年、学校全体で紹介し、計画的な家庭学習につなげたい。また、学校全体でライブラリ等の活用を進めるようにしたい。		・		・	校内研究	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「自分や周りの人の命を大切にし、思いやりの心で周りの人に優しい言葉をかけたり、行動したりしている。」と回答した生徒を85%以上とする。	・授業参観の時には道徳の授業を公開することで、家庭や地域の方々とも心の教育についての連携を図る。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施する。	A	・道徳に関するアンケートにおいて、「自分や周りの人の命を大切にし、思いやりの心で周りの人に優しい言葉をかけたり、行動したりしている。」と回答をした生徒は92.9%であるが、「あてはまらない。」「全くあてはまらない。」と回答した生徒が7.1%いた。今後は、道徳の実践力を意識した授業を進めていきたい。		・		・	道徳教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員を85%以上とする。	・いじめに関するアンケートを行い、早期発見、早期対応を行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に5回以上行う。	A	・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員が100%であった。今後も、学年や各担当との連携を意識し、職員間での共有と複数人での対応を行っていきたい。生活アンケートも継続的に続けていきたい。		・		・	生徒指導担当	
	●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・授業や各行事のリーダーを実行委員とし、出番・役割・承認を補償する。 ・SCによる生徒への心理教育を実施する。 ・キャリア教育の充実	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した生徒は90.1%であった。今後も授業や各行事、および委員会活動や係活動などの中で出番や役割を与え、積極的に承認をしていきたい。 ・「将来の夢や目標をもっている」と回答した生徒は71.7%にとどまっている。さらなるキャリア教育の充実を目指していきたい。		・		・	キャリア教育担当 生徒会担当	
	○不登校の未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	○月別報告書において、全校の不登校生徒の割合を6%以下とする。(前年度7.8%)	・定期的な教育相談アンケートやQUアンケート等を活用する。 ・専門的な知識を持つ外部人材を活用した職員研修や生徒講話などを実施する。 ・SCやSSW、サポート相談員や関係機関、地域との連携を強める。	A	・不登校生徒は8月(28名)で、割合は5.2%となっている。目標の6%に近い数字になっている。 ・教育相談アンケートやQUアンケートを活用し、問題の早期発見・早期対応に努めたい。また、SCやSSW、サポート相談員との連携強化や、遠隔授業の活用によって、個別への対応を充実させていきたい。		・		・	教育相談担当	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ○「望ましい生活習慣の形成」	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ○朝食をとって登校する生徒85%以上	・食に関する意識調査、生活状況調査の実施 ・食育に対する講演会の実施 ・保健だよりの発行 ・生徒会を中心とした健康づくり、体力づくりへの取組みの活性化を図る。	A	・「健康に良い食事をしている」は、「よくあてはまる」が79.6%、「だいたいあてはまる」を含めると97.8%である。「朝食をとって登校する生徒」は、「よくあてはまる」が79.6%、「だいたいあてはまる」を含めると93.9%である。どちらも目標を達成できた。これから、「よくあてはまる」と答える生徒の割合がより増えるよう、健康づくり、体力づくりへの食育の推進に努めたい。		・		・	給食担当 食育担当 保健教育担当	
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○命に関わるような生徒の交通事故・生活事故0(ゼロ) ○生徒の交通事故を5件以下にする。	・交通安全教室の実施と自転車点検を保護者と連携して充実させる。 ・室内における危険箇所や危険な状況について知らせたり考えさせたりする機会を設ける。	B	・1年生対象の交通安全教室を行い、交通安全に対する意識の向上を図った。また、集会などの機会に全校生徒に向けた注意喚起を行い、事故を防げるように努めた。しかし、車との接触など、事故が数件起こったため、今後も継続して注意喚起を行っていく。		・		・	学校安全担当	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・月間平均時間外勤務時間数を月45時間以下とする。 ・全職員年休5日以上の取得	・その日の学校施設予定時刻を毎日示す。 ・時間外勤務時間数が45時間を超えた職員は、管理職面談を行う。 ・困難な事案は複数で連携して取り組むことで負担軽減を図る。	B	・今年度よりその日の施設予定時刻を生徒の完全下校時間の1時間ほど後に設定し、全面のホワイトボードに示している。仕事のゴールを意識していると答えた職員が全体で約87%おり、一定の効果はあるようである。		・		・	教頭 主幹教諭 指導教諭	
	○文書処理の校務サーバーの利活用	○校務サーバーを使った文書データのやり取り、保存、整理をすることができたと答える職員を85%以上とする。	・職員間の文書データのやり取り、保存、整理を校務サーバーを通して行う。	A	・アンケートの結果から、約90%の職員がサーバー上での文書や情報のやりとりを行っており、校務サーバーを利用することが当たり前になっていると考えられる。		・		・	教頭 指導教諭 情報教育担当	
●特別支援教育の充実	○障害のある生徒個々の障害に配慮した、通常の教育課程に基づく指導	○「特別支援教育の視点を踏まえ、生徒への支援を行っている。」と回答した職員が80%以上。	・特別支援教育の視点を全職員が持つために、生徒一人一人の実態を把握し、個々にあった支援について考えられるような研修を実施する。	A	・「個別の教育支援計画・教育指導計画について」「特性と支援について」の校内研修を2回実施した。複数でグループを作り、生徒の実態把握と支援方法を考えた。		・		・	特別支援教育担当	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○開かれた学校づくり	◎地域を愛し、地域に愛される生徒の育成 ・城南中学校運営協議会、城南豊夢学園運営協議会の活性化 ・家庭や地域との連携、小中連携の取組の深まり	◎地域のニーズや要望をしっかりと踏まえ、地域と共生、協働をめざす。 ・学校行事、学年行事などへの保護者の参加率を70%以上とする。 ・学校評価アンケートで「地域行事に参加しようと思っている」と回答した生徒を60%以上にする	・CS協議内容を十分に検討し、豊夢学園のプロジェクトを推進し小中連携の充実を図る。 ・学校行事の日程や内容を不断に見直し、保護者の「見てみたい」「参加したい」という意識の高揚につなげる。 ・メールシステムとネットを活用し、保護者のニーズや意識を調べ、学校運営に生かす。 ・全校生徒だけでなく、部活動ごとにも呼びかけ、学校、地域のボランティアや行事に参加させる。	A	・年間予定を元に学校行事を行うが、その時の状況に応じて、日程や内容を修正することもある。アンケートによると、学校行事や学年行事にできるだけ参加すると応えた保護者は約90%であり、意識の高揚につながっていると考えられる。 ・「地域行事に参加しようと思っている」と回答した生徒は、67.5%だった。地域の取組や小学校との交流を生徒に早めに呼び掛け、参加を促し、年度末に向けて徐々に参加率を上げたい。		・		・	教頭 主幹教諭 指導教諭	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------